

# あゆみ通信

## 新年のご挨拶

会長 細川克彦(佛足寺)



新年  
あけましておと  
めでございます。  
昨年4月には、教  
区慶  
讚テ一  
マ「南  
無阿  
弥

陀  
人と生まれたこと  
の意味をたずねていこう

みんなに願いがかけら  
れている」の下、大阪教  
区「宗祖親鸞聖人御誕生8  
50年・立教開宗800年」  
の法要が勤まりました。

参詣されて、皆さまは  
どのような感銘を持たれ  
たでしょうか。私は、心  
から親鸞聖人のご誕生を  
喜び、親鸞聖人の教えに  
本当に出遇えているのだ  
ろうかと、恥じ入る思  
でした。

最近、久しぶりに、推  
進員になった時、親鸞聖  
人の前で読んだ宣誓文を  
取り出してみました。

朝夕のお勤め、お内仏  
の正しい莊嚴とお給仕、  
友を誘っての聞法、子ど  
もに仏法を伝える、本廟  
奉仕を呼びかけるなど、  
出来ていないことがいく  
つもあり、恥ずかしくて  
宣誓文を早くしまってし  
まいたい気がしました。

今年も皆様と共に聞法  
に努め、親鸞聖人の教  
えに出遇いたいと願って  
います。

どうぞよろしくお願い  
いたします。合掌。

VOL. 201

あゆみの会(真宗大谷  
派大阪教区第2組同朋  
の会推進員連絡協議会)  
会長 細川 克彦  
広報 本持 喜康

## あゆみの会総会 やります

従来の1ヶ月遅れですが、  
あゆみの会総会を下記の  
通り開催いたします。

発足以来、親鸞聖人の  
教えである「共に」のも  
とに、17年目を会員皆さん  
と共に今日を迎えるこ  
とが出来ました。

発足当初の皆さんが、  
少しづつ、ご病気や体調  
などの理由でお顔が見ら  
れないのは淋しいですが、  
防寒対策して同窓会のつ  
もりで、ご参加ください。

### あゆみの会 総会

日時 1月25日(日) 13:30

会場 即應寺(阿倍野区阪南町)

内容 総会(事業報告、会計報  
告、事業計画案、予算案等)

法話

講題

聞法の三要点

講師

藤井善隆先生

(即應寺 前住職)

その他

2026年の年会費  
(会員2000円、  
家族会員3500円)を受付けさ  
せていただきます。  
(別途、ご案内します)



## 第41回同朋大 会にご参集を

第2  
組では  
住職や  
坊守、  
寺族と  
門徒や  
推進員  
が共に  
学ぶ共  
同教化  
事業を、



## 親鸞のことば

海に入れば、すべて  
ひとしくなる

ぼんじょうぎやくほう  
凡聖、逆誹ひとしく  
えにゅう

回入すれば乗水、海に入  
りて一味なるがごとし

正信偈

「凡聖」とは凡夫と聖者のこと。  
「逆誹」とはひどい罪を犯した  
者や仏法をそしる者のことです。  
親鸞は、阿弥陀さまの本願の分  
け隔てのない救いを、海にたと  
えて讃えています。

海には汚れた水も澄んだ水も  
流れ込み、それらは必ず一つの  
塩味となります。本願もこのよ  
うな海の性質と同様に、どんな  
人間も平等に受け入れ、さとり  
を得させるのです。このはたら  
きを「必然(人を必ず仏にさせ  
る)」と言います。また、どん  
な人も救うと言う本願のはたら  
きが変わったり衰えたちしない  
ことを「不改(はたらきがあら  
たまわらない)」と言います。  
このような本願の海があなたに  
は用意されているのです。

(名古屋別院監修「人生を照らす親鸞  
の言葉」より)

## あけましておめで とうございます。

今年もよろしくお願いいたします。

新年を迎えて、引き締まる思  
いがあります。大阪教区教化セ  
ンター主幹であった本田恵先生  
の言葉を年頭にお伝えします。  
「来し方、数年を思うに、一日  
として同じ日があつただろうか。  
一度限りの人生だと言うことは、  
繰り返すことの出来ない、一日  
一日を過ごしてきたことである。  
今日は前代未聞の一日である。  
明日はいまだかつて出遇ったこ  
とのない、私の生涯はじめての  
朝を迎える。朝、仏前の礼拝は、  
事実として初詣であったのである」

今年は、心あらたにして、一  
日一日を生きていけたらと思  
うことです。聞法第一。(本)

継承しています。

2026年最初の仏事として、3月7日(土)に、恒例の第41回第2組同朋大会が以下の通り開催されます。

お誘いあわせの上で、ご参集ください。

日時 **3月7(土) 14時開会**

(13:30から受付け)

会場 難波別院同朋会館講堂  
(地下鉄御堂筋線・中央線本町駅下車。⑬出口から南へ)

内容 お勤めと演奏会と法話  
演奏 相愛大学音楽部 弦楽  
四重奏

講題 「ふみきみ法にあいまつる」

講師 真城 義磨先生(真宗大谷派山陽四国教区善照寺住職・前大谷中学・高等学校校長)

参加費 1000円(記念品有)

## 尊先生法話聞書

佛足寺 細川 克彦



第2組報恩講のご講師として、浄土真宗本願寺派の尊慶典先生が、節談説教と言う形で法話をされました。



先生ははじめに「讀し題」として、覚人如の上のご作になる『報恩講私記(式文)』

より、

「弟子四禪の線の端に、  
たまたま なんぶにんじん  
適、南浮人身の針を貫き、  
こうかい  
曠海の浪の上に、希に、  
まれ」



さいど うきぎ  
西土仏教の查に遇えり。

ここに祖師聖人の化導によりて、法藏因位の本誓を聴く、歡喜胸に満ち渴仰肝に銘ず。しかばすなわち、報じても報すべきは大悲の仏恩、謝しても謝すべきは師長の

ゆいとく うたう  
遺徳なり」と、朗々と謳いあげられました。

その内容について先生は、天から地上に落ちた針に糸を通すように、人間に生まれ難いこと、また、仏法に遇い難いことを、亀が百年に一度海面に顔を出した時、大洋にただよっている板にぶつかるほど困難であることを譬えていると説かれました。

そして仏さまの慈悲の深さを、あるお母さんが



夫亡きあと、苦労を重ねて、子らを育て上げたこと。そして死んでも子らに「なむあみだぶつ」と働きかけているというお話をされました。

休憩後、良寛さまのお話をされ、ある在家人が大地震にあって、困難を逃れる方法を良寛さまに手紙で尋ねられたら、良寛さまは「災難にあう時は、災難に会うがよからう。死ぬ時は、死ぬが

よからう」と返事をされたと。しかし、私たちはそういう心境になれるでしょうか。嘆きも時間がたてば忘れてしまうのではないかと。

また、先生のお兄様が14歳で亡くなられた時のお



話をされました。

お兄様が病気になって入院されていた時、第2次大戦の開戦の時と重なつて、薬が手に入らずまた病院からも出なければならなくなり、亡くなってしまった。その後、お母様は80歳を過ぎた頃から認知症がでて、お勤めのたびに、そのことを思い出されて、懲りされていたと。

しかし、お母様は亡くなられるまで「なむあみだぶつ」と称え続けられていたと。

お母様のお姿から、仏さまは共に居てくださる、仏さまに囲まれて生きている、この身は、仏さまのはたらき場であると、知ることができたと話されました。

